高齢者の透析をどう捉えどう対処するか

～ 「導入・非導入・継続・中止」の可否判断と終末期医療・ケア ～

大平整爾（札幌北クリニック）

透析対象患者は間違いなく「高齢化」し、透析医療は「高齢者医療」の代表格となりました。透析は延命に明らかな効果を示してきましたが、その一方で患者に種々の制限と苦痛を強いなければならない特殊な治療法である側面も否定できません。このため、1 人の進行腎不全患者に対する透析導入・継続の可否判断は、1）医学的立場から詳細に検討されることから始まり、2) 倫理的な 3) 社会的な、4) 法的な配慮が加えられなければなりません。これら４つの立場を突き詰めると、私共が患者および家族と共に「生と死」をどの様に捉えるかという命題に帰着できましょう。「生命の神聖性」を尊重しながらも、世界の趨勢は「生命の質重視」へとシフトしてきています。この基盤には「自己決定（権)」が存在するのですが、全ての患者が種々の困難な状況下で理性的・論理的に正当な判断を下し得るかに疑問が湧出します。医療者の節度ある介入を伴う共同の意思決定が不可避だと考えます。